

## 東京都八丈町大賀郷

収録日 1959年3月9日

位置： 八丈町は、伊豆7島に属する八丈島(ハチジマ)と、そのすぐ西の属島八丈小島(ハチジマコシマ)および八丈島の南さらに67kmにある青ヶ島とから成る。

八丈島は、東京の南方約290kmのところであり、東京から船で16時間(現在は13時間に短縮)。船は島の中央のくびれた部分の東側神湊(カミナト)港か西側の八重根港につく。はしけで上陸してしばらく西に行けば大賀郷である。また、航空機を利用すれば、東京から1時間20分(現在は1時間に短縮)。飛行場のあるところが大賀郷である。

地勢： 八丈島は2個の火山がひょうたん型につながってできた島である。北西部の八丈富士と呼ばれる西山と東南部の三原山とも呼ばれる東山の麓が接する中央部は、広い平坦地で、大賀郷はその西半分を占めている。

戸数・人口： 約930戸。約3,900人。

おもな産業： 八丈島は、水に悩む伊豆7島中唯一の例外で、特に東山の豊富な水は広く導水され活用されている。大賀郷地区は水田が開け、また、レタス・セロリの栽培や酪農が盛ん。

### 音韻おぼえがき

- 1) 音節の切れめをはっきりさせて、1つずつ区切って発音する傾向が目立つ。ぎくしゃくした音印象はそのためである。
- 2) サ行・ハ行の子音は、摩擦が東京語よりも強い。ヤ行の子音も、ときに、摩擦音の [j] となる。
- 3) ラ行の子音は、破裂が強く、語頭ではダ行音に近く聞こえる。
- 4) マ行・ナ行の子音は、その鼻音の閉鎖が強く、持続時間が長い。
- 5) セは、やや口蓋化している。[se] ~ [ʃe]。
- 6) =は、[je] ~ [ʃe] である。
- 7) ガ行音は、語中で [g] である。
- 8) 東京語の /oo/, /awa/ などに当たるところに、後半部が広く、ひら口に発音される [oA], [cə], [ɔ], [ɔ:] などが聞かれる。
- 9) つまる音は、有声破裂音の前に来ることもできる。
- 10) アタセントは、重の区別のない「無アタセント」である。

## 自由会話 1 足入れの話

(カセットテープ 7-2A11'15" から)

出 演 者 m 菊池庄之助 1890年生 農 業  
f 沖山いちえ 1885年生 "

m ワーヤー ヨメイ トル トキワ ンーナ<sup>2)</sup> ヨリヨサッテツツ<sup>3)</sup> ミー  
わたしが 嫁を とる ときは、 みんな 寄り集まって 見に

イカローガ ワガ ネッコケ トキヤ オメーガ<sup>4)</sup> イ ヨメイヨ  
行ったよ、 わたしが 小さい ときは。 あなたが 嫁入りを

シ ョ トキ オメーゴン<sup>5)</sup> マバラエナガラ  
する とき、 あなたのよう 人からながめられながらでは

ハジガマシカ ナカローカ  
恥ずかしく なかったですか。

f ャマンノ<sup>6)</sup> ゴアニ<sup>7)</sup> キビナークノー ゴジューニンモ ハチジューニンモー  
いまの ように 驚くほど 50人も 80人も

テッテ<sup>8)</sup> ワシヤズ ムカシニワ アンイレテッテ  
とは おいではならない。 昔は 足入れ婚といって

ジューノモノー コシラッテ ヒッカッコッデ<sup>9)</sup> コア サンニンカ  
重の物を 作って ひっかかえて ねえ、 3人か

1) 足入れ婚。嫁入婚から嫁入婚に移す過程に生じた一種の過渡的婚嫁方式ともいべきもの。結婚の際の祝いはごく簡単で、ある期間たったのち、はじめて婿家に引き取られる。その間、嫁は星は婿家に出向いて働くが、夜は星家に帰る。

2) [n::na]

4) 若いよども。

6) [\*manno]

9) [gikkak:kodde]

3) 「ツツ」は「ながら」の意。

5) [ome:gon]

7) [go:ni]

8) [wajadzu]

ゴニンデ ツッテイカニヤ ソンナ ハジガマシケ コトモ  
5人で 連れて行かれたので、 そんなに 恥ずかしい ことも

ナカロッガ ムカシワ ソガン シテ ツッテデテモ<sup>1)</sup> メンナ  
ありませんでしたが、 昔は そう して 連れて行っても みんな

マンゾクン シテ クリヤタアロン<sup>2)</sup> キビナーナ  
満足 して 暮らしたじゃありませんか。 驚くほど

マンノガン<sup>3)</sup> ゴゴ<sup>4)</sup> ゴマンモ ジューマンモ カネア<sup>4)</sup> カケテ  
いまのように 5万も 10万も お金を かけて

ウヌー ケッコシキ シテ ツッテイッテモ ワカレル メワ  
あの 結婚式を して 連れて行っても、 別れる 者は

ワカレロンテ ウヤ ムカシノガン ノ カネー カケズニ  
別れるんですから。 あれば 昔のように ねえ お金を かけずに

シ ョ ガ ヨッケノー ウガンドア コトワ  
するのが いいですねえ、 ああいう ことは。

m ホントーダラー<sup>5)</sup> ソゴン ショーガ<sup>6)</sup> イッチ イイー<sup>7)</sup>  
ほんとうだよ。 そう するのが いちばん いい。

f カネアー<sup>8)</sup> ゴマンモ ジューマンモ カケテ ショヨリワ ソレアエワ<sup>9)</sup>  
金を 5万も 10万も かけて するよりは、 それよりは

ジブンラノ<sup>10)</sup> ト トシヤノ カネン ヒッカケナガラニ ジューノモノ  
自分たちの 生活の 金に しながら、 重の物を

1) [minna]

4) [kanee]

7) [jii]

10) 若いよども。

2) [kurijataaron]

5) [hanto:dara:]

8) [kanee]

3) 若いよども。

6) [jo:ga]

9) [sorawewa]

ヒトナガレデ ケッコシキ シガ イチバン ラクテ ヨケ  
1重ねで 結婚式を するのが いちばん 楽で いい

コトドアジャ ジューモノデ<sup>2)</sup> デ サオドデ<sup>3)</sup> アシイレア<sup>4)</sup> シテモ  
ことですよ。 重の物で それだけで 足入れ婚を しても、

ウンノ アル ヒトガ イ<sup>5)</sup>ラ イ<sup>6)</sup>ー ラク ナル ヒトモ  
運の ある 人が 生活が よく なる 人も

アロン ノー マンノガン ジューマンモ ジューゴマンモ カケテ  
あるし、 ねえ、 いまのように 10万も 15万も かけて

ケッコシキ シテモ ヘタド<sup>7)</sup> メワ ヘタン  
結婚式を しても、 だめな 者は 生活が悪く

ナロンテー (m ウン) カネア<sup>8)</sup> カケズン シガ ホノ  
なるんですから。 (m うん) 金を かけずに するのが ほうが

ヨクチャ ネアカ<sup>9)</sup> ムカシノガン  
よくは ありませんか、 昔のように。

m ホー ソゴンダーラー<sup>10)</sup> ノー ワレンサーワ<sup>11)</sup> ヨメー トットッテーワ  
ああ そうだねえ。 ねえ、 わたしなんかは 嫁を とっていても、

12) ヨメ 13) シュートノ エン オットッテー ヒトツキモ<sup>14)</sup> フタツキモ  
嫁を しゅうと[姑]の 家においておいて、 1月も 2月も

1) 語頭の [r] は破裂が東京語より強い。 2) 言いまじがい。  
3) [saodode] 4) [ʔaʃiireæ] 5) 言いよどみ。  
6) [je-raku]。「家が楽に」が原意。 7) [hetadoa] 8) [kaneæ] 9) [neæka] 10) [sogonda:ʔ:]  
11) 「セー」は [ge:]。「など」「なんか」の意。 12) [jome:]。この [j] には摩擦が聞こえる。  
13) 嫁の両親を指す。 14) 「ツ」は [tu] と表わしうるほどの音。

ヨメノ ゴートエ カヨアラロアガ<sup>1)</sup> ウレガ タノシミダカノー  
嫁の ところへ 通ったが、 あれが 楽しみなのかねえ、

ムカシノ (f ムカシ<sup>2)</sup>) ヒトワ  
昔の 人は。

f ムカシ<sup>3)</sup> ムカシワ イチネンモヨー ウガン ナッテ  
昔は 1年もねえ あのように なって

カヨワラヤ<sup>4)</sup> (m ウン) ソ<sup>5)</sup>オ ソノ ヨメノ トコロ<sup>6)</sup>シャン  
通ったものでした、 (m うん) その 嫁の ところへ。

ドア マニワ ハヤ イケバ イキッキリ ソノヒカラ ソノ  
けれど、 いまは もう 行けば 行きっきり、 その日から その

シュートノ<sup>7)</sup> イ<sup>8)</sup>ガ アルダンテノー ヨメモ<sup>9)</sup>  
しゅうとの 家が あるんですからねえ、 嫁も。

m ショッテノ ヒトワ オトコガ トクドオワリダラーノー ヨメー<sup>10)</sup>  
以前の 人は 男(のほう)が 割得だねえ、 嫁を

トララーテワ バッカリデー  
とったという だけで。

f ホント<sup>11)</sup> コドモノ サンニン アルマデモ カヨワロア ヒトモ  
ほんとに こどもが 3人 できるまでも 通った 人も

アロジャ  
ありますよ。

1) [kajoraroaga] 2) 言いさし。 3) 言いよどみ。  
4) [kajowaraja]。「カヨワラヤ」(大過去、回想過去)のあとの[r]が[j]に変わったもの。  
5) 言いよどみ。 6) [ʃan]は方向を示す格助詞。  
7) 夫の両親を指す。 8) [je] 9) 「モ」は [mʔ]。  
10) [tokudoowari]。「得な割」の意。 11) [hāntoa]



## 大賀郷(八丈島)

m (笑) サンニンカ ヨッタリマデモ デキロマデモ シュー<sup>1)</sup>トノ イ<sup>2)</sup>ン  
3人か 4人までも できるまでも しゅうとの 家に

オイトッテ<sup>3)</sup>ヤ シブンガ ヨルワ カイ<sup>3)</sup>エイ アサ カイ<sup>4)</sup>エリ  
おいておいて、 自分が 夜は 通い、 朝 帰り、

テ<sup>5)</sup>イッテ シト<sup>6)</sup>ー コトガ  
と<sup>6)</sup>いって した ことが……。

f ヨメノガラワ イ<sup>7)</sup>エダロー ソノ ホーガ シュー<sup>7)</sup>ト コジュ<sup>7)</sup>ートノ  
嫁のためには よかったんです。 その ほうが しゅうと こじゅうとの

キガネ<sup>7)</sup>ア セズ  
気兼ねを しないし。

m ソゴンダ<sup>7)</sup>ッカノー  
そうかねえ。

f ア<sup>8)</sup>ニ<sup>8)</sup>テカ ムカシツツ ウタ ウタモ ア<sup>8)</sup>ッチガ  
なんとかいう 昔からの 歌も ありましたよ。

シュー<sup>8)</sup>ト カミナリ コジュ<sup>8)</sup>ートワ ナズマ ヨメワ シャジクノ  
「しゅうとは 雷、 こじゅうとは 稲妻、 嫁は 車軸の

アメト ナルー テヨ ウタモ ア<sup>9)</sup>ッチガ ソレ<sup>9)</sup>ダンテ  
雨と なる」という 歌も ありましたよ。 それだから、

ムカシノ ヒトノ オンナゴワ オヤノ ソバン ハ<sup>10)</sup>エ<sup>10)</sup>テ アロガ  
昔の 人の 女は 親の そばに いつも いるのが

1) 妻の両親を指す。

2) [jen]

3) [ka<sup>4</sup>ei]4) [ka<sup>4</sup>eri-]5) [i<sup>4</sup>itte]

6) かすかて聞き取れない。

7) [kiganeə]

8) 言いよどみ。

9) [so<sup>4</sup>e]

10) [hæ:te]

## 大賀郷(八丈島)

ヌンキダランノー  
気楽だったんでしょ。

m ソナ ……<sup>1)</sup> ヨク ヨメニ イクナラ シュー<sup>1)</sup>ト コジュ<sup>1)</sup>ートノ  
よく 嫁に 行くなら、 しゅうと こじゅうとの

ナイ トコイ イテッテ ヨク ウ<sup>2)</sup>ッ ウトロー<sup>2)</sup>モンドー<sup>2)</sup>ジャ  
いない、 ところへ 行けと よく 歌ったものだね、

ボン<sup>3)</sup>セー<sup>3)</sup>ラノ ボン<sup>3)</sup>オドリン<sup>3)</sup>セー<sup>3)</sup>ニ  
盆なんかの 盆踊りなんかに。

f ソガ<sup>4)</sup>ン イッテ ウトウワ<sup>4)</sup>ラロア<sup>4)</sup>ガ ソレ<sup>5)</sup>デモノ<sup>5)</sup>ー シュー<sup>5)</sup>トノ  
そのように 行って 歌いましたが、 それでもねえ、 しゅうとが

アロン<sup>5)</sup>テカ<sup>5)</sup>ノー ソノ ムコ<sup>5)</sup>サン<sup>5)</sup>モ デキ<sup>5)</sup>レガ<sup>5)</sup>ノー  
あるからこそ、 その むこ[婿]さんも できるではありませんか。

オヤノ ナク<sup>6)</sup>テワ デキン<sup>6)</sup>ノアン<sup>6)</sup>テ (笑) オヨ ワガ  
親が なければ できないのだから、 親を 自分が

タイ<sup>6)</sup>セツ<sup>6)</sup>ニ シ<sup>6)</sup>ガ ヨ<sup>6)</sup>ケ<sup>6)</sup>ダヤ<sup>6)</sup>ー  
大切に するのが いいのです。

1) 「……ウトローッテ」のようにも聞こえるかはっきりしない。

2) 言いよどみ。

3) 「セー」は [set]。

4) [uto<sup>4</sup>araroaga]

5) 「ノー」は [no:]。

6) [jokedaja\*]。[ヨケダヤ] (いいのだ) の [r] が [j] に変じたもの。